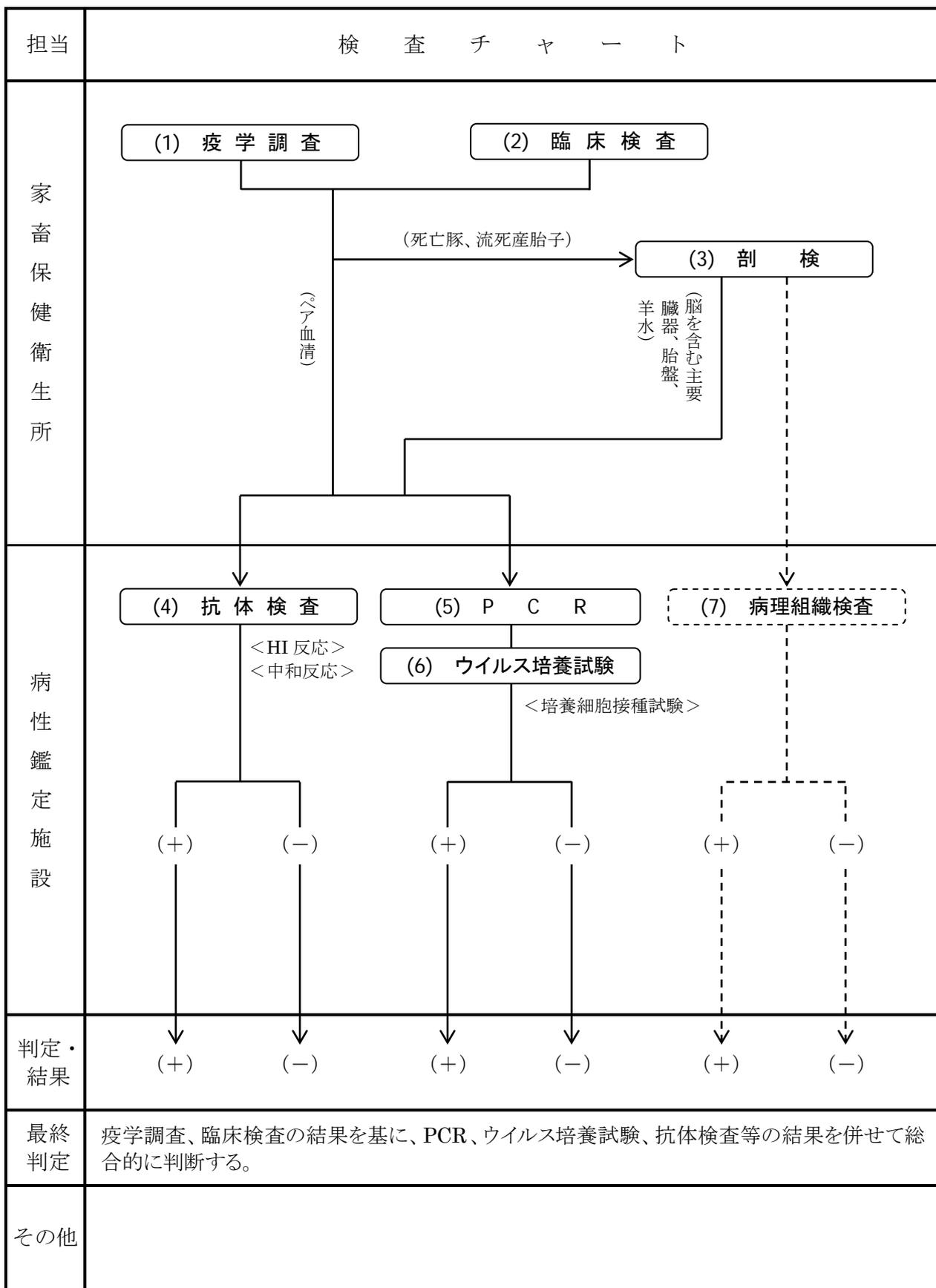


88 豚ゲタウイルス病



→類似疾病検査

- ① 66 流行性脳炎(日本脳炎) ② 72 豚レプトスピラ症 ③ 76 オーエスキー病
- ④ 79 豚繁殖・呼吸障害症候群(PRRS) ⑤ 86 豚パルボウイルス病
- ⑥ 89 豚サーコウイルス関連疾病(PCVAD)

○ 病原体:ゲタウイルス;Getah virus [*Getah virus*, *Alphavirus*, *Togaviridae*]

(1) 疫学調査

- ① キンイロヤブカやコガタアカイエカにより媒介
- ② ウイルスはほぼ日本全土に分布し、本病の流行は主に夏から秋
- ③ 異常産発生母豚は本病のワクチン接種を受けていない。

(2) 臨床検査

- ① 妊娠豚の感染により流死産がみられ、中でも、妊娠初期の感染による流産が多い。
- ② 生後1週間以内の新生子豚において、元気消失、食欲不振、下痢、全身の震え、後肢麻痺、2～3日の経過で急死
- ③ 母豚には特に変化は認められない。

(3) 剖 検

- ① 母豚には特に変化は認められない。
- ② 異常産子は小型で、体表の変色
- ③ 新生子豚にも特徴的な所見は認められない。

(4) 抗体検査(HI反応、中和反応)

- ① 母豚の分娩前後のペア血清を用いて、有意な抗体価の上昇を確認する。
- ② 異常産子については胸水や腹水など体液について実施する。

(5) P C R ¹⁾

流死産胎子あるいは分離ウイルスから抽出したRNAを用いてウイルス遺伝子を検出する。

(6) ウイルス培養試験(培養細胞接種試験)

使用細胞:ESK、CPK、Vero、HmLu-1 細胞
接種材料:発症子豚や異常産子の脳を含む主要臓器、血清、異常産では胎盤、羊水
培養方法:37℃での培養
成績:CPEの確認
同定:蛍光抗体染色による培養細胞中の特異蛍光の確認。交差中和試験

(7) 病理組織検査

- ① 母豚には特に異常はない。
- ② 異常産子や新生子豚でも多くの場合特筆すべき変化は認められない。

(参考文献)

1) Wekesa, S.N., et al.: Vet. Microbiol. 83, 137-146 (2001).